



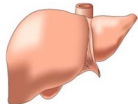
検査のとびら



作成 2023年5月 検査

発行 検査室・医療安全管理室

肝臓の働きと検査



肝臓は内臓で一番重い臓器で、化学工場と呼ばれるほど多くの働きをしています。肝臓は大きな予備能力があるため、悪くなくてもなかなか症状がでないため「沈黙の臓器」と呼ばれています。



•どんな働きがあるの？

◆代謝機能

消化管から吸収された栄養素を身体に必要な物質（蛋白質、コレステロール、凝固因子など）に作り替え・合成する機能

◆貯蔵機能

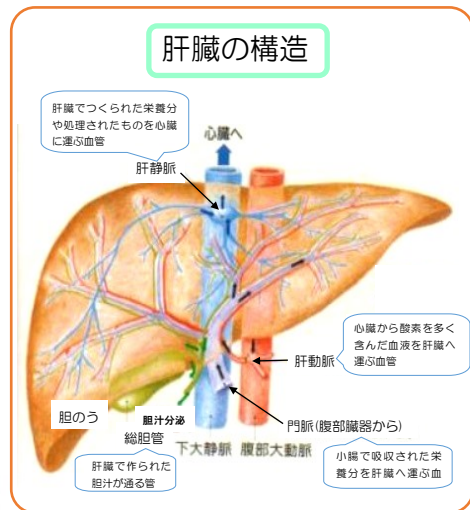
吸収された糖分や脂肪をエネルギー物質として蓄えたり、葉酸やビタミンなどを蓄える機能

◆解毒作用

アルコールや薬剤、老廃物などの有害物質を分解・無毒化して体外に排出する機能

◆胆汁の分泌

古い赤血球やコレステロールから胆汁（脂肪の消化を助ける消化液）の材料となる胆汁酸やビリルビンを作り、胆汁を合成・分泌する働き



肝炎の後、糖尿病になりやすい？

肝炎で代謝・貯蔵機能にダメージを受けると、糖分の貯蔵・利用能が低下するため高血糖状態になりやすいので注意が必要です。

•肝臓の検査

肝臓の検査には①血液検査 ②画像診断 ③肝生検の3つがあります。

検査項目名	
AST/ALT	肝細胞が壊れると漏れ出る、壊され具合を反映。ALTは肝臓に多く分布
γ GT (γ GTP)	肝・胆道の細胞膜上で働く酵素、胆道系の異常で上昇する。アルコールの習慣的な摂取により上昇する。飲酒マーカー
アルブミン コレステロール 凝固因子	吸収したアミノ酸・脂肪酸から肝臓で合成される。肝細胞が壊れると造られなくなり、血中の値が減少する
血小板数	肝臓の線維化が進むと血小板の産生の減少と血流低下による血小板の破壊が増加するため減少する。肝硬変の進展度の指標

① 血液検査

• 代表的な項目のみ紹介

② 画像検査

• 超音波検査・腹部CT・MRIなどで肝臓の中を調べる検査

③ 肝生検

• 肝臓に針を刺し組織を採取して顕微鏡で見て診断する検査



Point! 肝障害時の値は？

- AST、ALT、 γ GT、Bilは上昇↑
- Alb、TC、血小板数、凝固因子は低下↓

Alb、TC、血小板数が低値になったらヤバイ！栄養状態不良



ほかにも炎症の原因を探る検査があるよ！

問合せ先：検査室 佐藤まで